

令和 4 年度 晃宝小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「豊かな心と健やかな体をもち、創造的に考え、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きぬく人間」の育成を図る。

子ども像：進んで学ぶ子 がまん強くやりぬく子 仲良く協力する子
合言葉：晃宝っ子 やる気（知） 根気（体） 思いやり（徳）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「人間尊重の教育」を基調とし、豊かな心をもち、知・体・徳の調和のとれた、自立貢献をモットーに、生涯にわたってたくましく成長し続けられる人間の育成を図る。

「地域が学校～地域に学び、地域とともに伸びる晃宝小学校」を目指し、児童・保護者・地域の想いを生かして、全職員参加型の学校経営を展開する。

目指す学校像：学びや笑顔のある学校 仲間のいる学校 活力のある楽しい学校 安心・安全の学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 晃宝小学校の歴史と伝統を踏まえ、長年にわたって築いた教育の精神や校風を継承し、その向上と発展に努める。
- (2) ○学校経営の中核に教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を位置づけ、学びに向かう集団（学級）づくりをめざし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ることや、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習指導等により誰もが分かる驚きや発見のある楽しい授業を展開する。
- (3) 家庭・地域社会との連携強化に努めるとともに、社会の多様な要請に応じることができる、社会に開かれた学校づくりに努める。
- (4) 豊かな心、たくましい体をもち、自身の変容や成長に気付き、学習活動を振り返ることにより自身の変容や成長に気付き自己肯定感の高い子どもを育成する。
- (5) 教育公務員としての使命を自覚し、和と協働の精神を大切にして、専門職にふさわしい資質（教師のコーディネート力等）の向上を目指す。
- (6) 教職員の勤務時間を把握し、意識改革や業務改善や分掌組織の平準化や仕事術紹介に取り組む等により、「学校における働き方改革」を進めていく。

[国本地域学校園教育ビジョン]

「自ら学び 心豊かで 元気な国本っ子」 ～地域とともにある学校をめざして～

4 教育課程編成の方針

- (1) 各種教育法規や県及び市の指導方針の下、本校教育目標達成のための経営方針並びに前年度学校評価の課題等を踏まえて、本校教育の特色を具現化できるように編成する。
- (2) 習得知識を教科横断的に既存の知識と関連付け、深く理解し、生きて働く「知識及び技能」の使い方を習得させる。その上で、未知への対応力の基礎「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生に生かす「学びに向かう力、人間性等」を含めた「資質・能力」の育成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
○地域社会に開かれた学校づくりを推進し、体験活動や地域の方々との豊かなかかわり合いを通して、人権感覚のある児童を育成する。
～「輝く笑顔—できた喜びの笑顔、友達と遊ぶ笑顔、子どもたちの成長を見つめる笑顔」～
- (2) 学習指導
○豊かな心をもち、生き生きと学ぶ子どもの育成 ～主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動の工夫～
- (3) 児童生徒指導
○自ら考え、判断し、自分の行動に責任をもち主体的に行動できる児童の育成
○あいさつ、返事、そして場に応じた適切な言葉遣いを身につける基本的な生活習慣の育成
- (4) 健康(体力・保健・食育・安全)
○ 自分の健康・体力に関心をもち、目標をもって根気強く運動や学習をする児童の育成

6 自己評価（評価項目 A は市共通）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取り組みにかかわる内容は、該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取り組み」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取り組み	方向性	評価		
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① <u>学習のねらいや見通しが分かる課題の提示、学び合う場の設定、振り返り活動の充実など、誰もがわかる楽しい学習活動の工夫・改善に努める。</u> ② <u>学習意欲を高め、自主性を育む働きかけを工夫する。</u>	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の回答</td><td>92.6%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答の割合が9割を超えており、多くの児童が進んで学習に取り組んでいることがわかる。 【次年度の方針】 ・分かる授業、楽しい学習活動の工夫・改善に努め、基礎・基本の定着を図る。 ・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善により児童一人一人が積極的に学習に取り組めるように働きかける。	児童の回答	92.6%
	児童の回答	92.6%				
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① 教育目標の合言葉「やる気 根気 思いやり」のもと、道徳や各教科の他、教育活動全般において、「思いやり」の心を育む教材での指導の充実を図る。 ② 縦割り班活動（GFT 活動）の一層の活性化により、児童同士が互いを大切にし、認め合う態度を育む。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の回答</td><td>91.0%</td></tr></table> 十分達成できている。 【次年度の方針】 ・引き続き、道徳の授業や人権週間、縦割り班等の活動を通して、人権意識を高め、思いやりの心を育む指導を継続していく。	児童の回答	91.0%
	児童の回答	91.0%				
A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① <u>「晃宝っ子の1日」をもとに、生活において守るべきルールを月生活目標として各教室に掲示する。約束の内容や意義を児童・保護者・職員が共有し、共通理解のもと指導にあたる。</u> ②生活指導当番による校内巡視や、児童指導連絡会における児童の様子についての情報共有により、児童の実態把握に努める。共通理解に基づき全校体制による指導改善を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の回答</td><td>91.4%</td></tr></table> 十分達成できている。 【次年度の方針】 ・昨年度に引き続き、生活指導当番による校内巡視等の取り組みを継続し、より一層の充実を図る。また、コロナ禍における新しい生活様式に関する指導も継続していく。	児童の回答	91.4%	
児童の回答	91.4%					
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 〈保護者アンケート80%〉	① 児童・保護者・地域・教職員が協力し、時と場に応じたあいさつができる習慣づくりを目指す。 ② <u>地域学校園での合同あいさつ運動を実施し、明るいあいさつが実践できるようにする。</u> ③ <u>校内での指導を継続するとともに、家庭と地域が連携して指導に当たれるよう学校からの発信を工夫する。</u>	B	【達成状況】 <table><tr><td>保護者の回答</td><td>83.0%</td></tr></table> 十分達成できている。 【次年度の方針】 ・昨年度に引き続き、校内指導と地域学校園での合同あいさつ運動を継続する。 ・学校の取り組みを学校便りやホームページで発信することで、地域や家庭への啓発をしていく。	保護者の回答	83.0%	
保護者の回答	83.0%					

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① 教育目標の合言葉「やる気 根気 思いやり」のもと、目標をもって活動に取り組める場面をより多く設定し、粘り強い取り組みによって児童が達成感を得られるように支援する。 ② 心の「たくましさ」の涵養に向け、やり抜く心や折れない心を育成する体験活動等の一層の充実を図る。	B 【達成状況】 児童の回答 88. 8 % ・十分達成できている。行事や運動に意欲的に取り組む姿が見られた。長期休暇の家族読書の取り組みやお弁当の日のワークシート、キャリアパスポート、宇都宮元気っ子チャレンジ（冬休み版）など、家庭と連携を図りながら児童が達成感を得られるような環境を整えた。休み時間の外遊びの励行や各種運動資料の活用などを通し、楽しみながら目標をもって努力する喜びを感じることが出来た。 【次年度の方針】 ・校内で体育科ワークシートなどを共有することで、共通の方向性で指導ができるようにする。また、行事やその取り組みごとに目標を意識し、活動後に振り返ったり、繰り返し声を掛けたりして、引き続き活動させていく。家庭と学校で連携を図りながら、保護者と教員が一丸となり、共通の方向性で継続指導していく。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① 校内外での生活において、安全に行動しようという意識を高めるよう、様々な機会をとらえて、発達段階に応じた指導を行う。 ② 保健だよりや食育だよりの発行や、定期健康診断、給食週間やお弁当の日の実施等を通して、家庭の健康や食に対する意識が高まるよう啓発を行う。 ③ 学校栄養士による家庭科の調理実習、養護教諭による体育科保健領域の授業を実施する。	B 【達成状況】 児童の回答 93. 3 % ・十分に達成できている。教職員が掲示板等を活用し、指導の方向性について共通理解を図ることで、意識的・継続的に指導することができた。手洗いやマスク着用、消毒などの児童の衛生意識が高まっていた。児童の様子をよく観察し、状況に応じて校庭の決まりや校内のルールを整備した。児童もよく決まりを守っていた。真夏には、保健委員会の児童が中心となって、熱中症指数とそれに応じた適切な過ごし方の放送を行うことで、健康や安全について児童の意識が高まった。廊下の歩き方など、校内での安全な過ごし方が身に付いてきた。生活習慣チェックカードやお弁当カードを通して、食事や健康について保護者と児童の関心が高まった。 【次年度の方針】 ・生活様式や健康、安全などについて、家庭と連携を図りながら、繰り返し指導していく。また、各種便りや保護者との懇談においても、児童の成長について伝え、家庭との連携を深めていく。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① 教育目標の合言葉「やる気 根気 思いやり」のもと、目標をもって活動に取り組める場面をより多く設定し、粘り強い取り組みによって児童が達成感を得られるように支援する。 ② 各教科や他の教育活動で学んだ社会とのかかわりについての知識や技能を、実生活に生かしていこうとする態度を育成する。そのために、授業と日常生活の様々な場面とをつなぐなどの支援を行う。	B 【達成状況】 児童の回答 88. 0 % ・達成できている。 【次年度の方針】 ・児童が夢や目標をもって社会に貢献しようとする気持ちをもてるよう、社会科、生活科の教科の授業、キャリア教育や道徳教育等の教育活動を充実させていく。 ・児童に社会とのつながりや奉仕の心等を意識させる活動を常時活動に組み入れ、よりよい実践を図っていく。 ・児童の実態に応じて、個々の目標をもたせ、粘り強い取り組みによって児童が達成感を得られるように支援する。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 〈児童アンケート 80%〉	① 外国語活動・外国語において、英語によるコミュニケーションの場を意図的に設定し、より効果的にコミュニケーションが図れるような支援により、外国語活動の一層の充実を図る。 ② ALT との授業内容等の打ち合わせを充実させ、発達段階に応じたきめ細かな支援に生かす。	B	【達成状況】 児童の回答 88.4% ・達成できている。 【次年度の方針】 ・外国語活動・外国語において、英語を使って楽しくコミュニケーションがとれるような機会を設定し、発達段階に応じたきめ細やかな支援を充実させる。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 〈児童アンケート 80%〉	① 生活科や社会科、総合的な学習等において、国本地区や宇都宮市について学習する機会をとらえ、その「よさ」について考える活動を意図的に設定する。 ② 図書やパンフレット、インターネットなどから宇都宮学に関する資料や情報を収集し、自分の住んでいる地域や宇都宮市について触れる機会を増やして、その良さについて考える活動を設定する。	B	【達成状況】 児童の回答 83.0% ・達成できている。 【次年度の方針】 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間等において、国本地区や宇都宮市について学習する機会を捉え、その「よさ」について考える活動を充実させていく。 ・宇都宮学等の資料を掲示し、児童が自分の住んでいる地域や宇都宮市の様子を知る機会を増やせるようにする。
A 10 児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 〈児童アンケート 80%〉	① 各学習活動において、ICT 機器や図書を活用することが有効な場面について、さらなる検証を行い、より効果的な活用を行うことで授業の充実を図る。	B	【達成状況】 児童の回答 90.1% ・十分に達成できている。 【次年度の方針】 ・ICT 機器の活用や図書等の活用については、指導計画に従い、より効果的な活用を行うことで授業の充実を図る。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 〈地域アンケート 80%〉	① 道徳科を核とした系統的な教育や認め励ます教育などを通し「心の教育」を推進し、高齢者を始め、自分に関わる様々な方々への感謝の心やいたわりの態度の育成を図る。	B	【達成状況】 地域の回答 100% 十分達成できている。 【次年度の方針】 ・コロナの感染対策を十分に行いながら、「心の教育」を推進し、道徳科を核とした系統的な教育や地域との交流を通して、高齢者をはじめ、自分に関わる様々な方々への感謝の心やいたわりの態度の育成を図る。
A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 〈児童アンケート 80%〉	① 各教科・領域において個々のテーマについて別々に実施していた学習を、「持続可能な開発のための教育」（以下 ESD）の視点で統合的に再構築する。 ② 各学習における、環境問題やエネルギー問題、国際理解、防災等にかかわる活動の場面をとらえ、日常生活と地球の課題との間につながりがあることが認識できるよう、児童に働きかけるなど、教職員が ESD を意識して日々の教育活動を実践する。	B	【達成状況】 児童の回答 85.9% ・達成できている。 【次年度の方針】 ・係、委員会活動や社会科や総合的な学習の時間等の授業において、「持続可能な社会」との関連を意識できるよう、教職員が児童に働きかけるなど、持続可能な開発のための教育（ESD）を意識しながら日々の教育活動を実践していく。

目指す学校の姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ＜教職員アンケート80％＞	① 特別な支援が必要な児童生徒一人一人が自信と意欲をもって学校生活を送れることを目指し、かがやきルーム（特別支援教室）やゆうゆう教室（通級指導教室）の効果的な活用を行う。また、関連機関との連携により、多国籍化する外国人児童等への日本語指導を充実させる。 ② 「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」の活用等を行い、教職員研修の充実により、教職員の指導力を向上する。	B	【達成状況】 教職員の回答 93.9％ 十分達成している。 【次年度の方針】 ・昨年度に引き続き、担任一人が抱え込まず、組織的に対応できるよう、情報共有の場を頻繁に確保して、かがやきルームやゆうゆう教室を活用し、関係機関との連携を強化する。 ・特別支援教育に関する職員研修の充実を図る。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ＜児童アンケート80％＞	① 「いじめゼロ強調月間」に「いじめゼロ集会」を設け、いじめ根絶に努めるとともに、朝の会、帰りの会、道徳の時間、学級活動などを通して継続的に指導する。 ② 児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるよう、児童との相談週間「おはなしタイム」（年2回 6月11月）を充実させる。 ③ 児童指導研修会（年3回）や特別支援委員会（年5回）の実施により、全職員による協力体制を強化し、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。	B	【達成状況】 児童の回答 96.4％ 十分達成できている。 【次年度の方針】 ・コロナ禍でもできる効果的な集会活動等を工夫していく。 ・年2回の「おはなしタイム」だけではなく、気になる児童とは適宜教育相談を行っている。 ・情報共有の場を活用し、全職員による協力体制を強化していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ＜児童アンケート80％＞	① 各学級において、日々の児童観察や、信頼関係の構築に加え、教育相談の充実を図り、児童一人一人に寄り添いながら個に応じた支援を行う。 ② ケース会議や不登校対策委員会により、不登校の予防や不登校傾向児への対応の充実を目指し、学校体制で不登校対策の強化に取り組む。	B	【達成状況】 児童の回答 95.8％ 十分達成できている。 【次年度の方針】 ・昨年度に引き続き、個に応じた支援や学校体制での取り組みをするとともに、保護者との信頼関係を密に構築していけるようにする。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ＜教職員アンケート80％＞	① それぞれの外国人児童及び対象保護者等の実情や困り感に応じて、外部諸機関や専門スタッフ・支援者との連携を図り、適切に支援を行う。	B	【達成状況】 教職員の回答 93.9％ 十分達成できている。 【次年度の方針】 ・外国人児童の実態と外部機関や専門スタッフ・支援者との連携を図り、適切な支援を図っていけるようにする。

A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ＜児童アンケート80％＞	① <u>学校行事や教育活動等に児童が意欲的・主体的に取り組めるよう、一人一人が活躍できる場や、多様な人と交流できる場を設定する。</u> ② なかよしタイム（業間）やふれあいタイム（昼休み）を活用した活動を充実させ、外遊びや縦割り班活動（GFT 活動）での遊びを充実させて、明るく楽しい学校をめざす。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の回答</td><td>90.5%</td></tr></table> ・十分に達成できている。休み時間には、外で元気に遊んでいる児童が多く、クラスでまとまって遊んでいる様子が見られた。活動の始めに揃って挨拶をしたり、隅々まできれいに拭き掃除をしたりする姿が見られ、清掃に意欲的に取り組んでいる児童が多い。今年から縦割り班活動、清掃活動など、コロナ禍以前と同様の活動が行えるようになってきたことで、児童は、学校でみんなと過ごす大切さを実感し、日々の学校生活を仲良く楽しく過ごそうという気持ちが見られた。 【次年度の方針】 ・目標や手立てなど共通理解を図り、同一歩調で指導していく。児童が生き生きとした学校生活を送れるように、活動や決まりの見直しを適宜行っていく。	児童の回答	90.5%
児童の回答	90.5%			
A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ＜児童アンケート80％＞	① <u>一人一人の学習意欲を高め、分かる喜びやできる喜びを味わえる授業の工夫・改善に努める。</u> ・授業のねらいの明確化 ・学習の振り返りの工夫 ・教材開発、教材研究 ・指導法の工夫 ② 児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導や効果的な支援体制に努める。 ・習熟度別学習やTT、少人数指導 ・かがやきルームの有効活用 ③ 教師が互いに授業公開をし合っでの検討や、要請訪問等の授業研究・研修等を通して、教職員の授業力の向上を図る。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の回答</td><td>95.6%</td></tr></table> ・十分達成できている。 ・授業中の個に応じたきめ細やかな指導やかがやきルーム職員と学級担任の連携による児童の実態に応じた支援により、児童の肯定的回答の割合が高かったのではないかと考えられる。 【次年度の方針】 ・学力向上を目指し、児童の実態を明確に捉え、教職員の授業力向上・個別指導の在り方や支援体制の研修に努める。	児童の回答	95.6%
児童の回答	95.6%			
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ＜教職員アンケート80％＞	① 関係職員との協力が可能な内容や場面を明確にし、教職員が各スタッフの専門性を十分に活用できるようにする。 ② 各スタッフが参画するものについて、その意義を明らかにし、教育活動充実のために、より効果の上がる連携を模索し、充実した学習指導や教育活動が行えるよう工夫する。	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の回答</td><td>87.9%</td></tr></table> 前年度より0.7ポイント下回ったものの、数値指標を7.9ポイント上回った。一人で抱え込まず、チームで取り組む学校方針が定着してきている。 【次年度の方針】 引き続き、各スタッフの専門性を活かせる場面の開発及び明確化と、記録に残して引継ぎ、定着や改善工夫を図ることができるようなサイクルづくりを推進する。	教職員の回答	87.9%
教職員の回答	87.9%			

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 〈教職員アンケート80%〉	① 学校行事の抜本的な見直しを行うとともに、本来学校が担うべき業務を明確にし、学校外の諸機関や保護者に対し、業務内容や勤務時間についての理解を得る働きかけを行って、業務を精選する。 ② 各種専門機関や地域等の学校支援の充実により、教職員が児童と向き合う時間を確保する。 ③ 時間調整を工夫し、職員間で必要な連携を図るための、打ち合わせ時間や作業時間等の確保に努める。	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の回答</td><td>45.5%</td></tr></table> 時短勤務等、制度活用による働き方の推進に努めているが、数値指標を下回り、更に肯定的回答割合が前年度より大きく下回った。 【次年度の方針】 学校行事の見直し、業務内容の精選を行うとともに、地域や外部機関等の学校支援の充実を図り、教職員が児童と向き合う時間を確保する。 校務分掌ごとに年間の見通しをもたせる、仕事の見える化、終わりの時間を決める、実効性のあるリフレッシュデー（ウィーク）の設定等を推進し、チームで取り組むことで、教職員個々のタイムマネジメント力を高め、業務効率化を進める。	教職員の回答	45.5%
教職員の回答	45.5%			
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。 【数値指標】 〈保護者アンケート80%〉	① <u>交流授業を実施する。</u> ② <u>4校の教職員が協力して、小中学校において、一貫した保健指導や食育指導、読書指導等の取り組みを実施する。</u> ③ <u>地域の団体主催事業（チャレンジウオーク、かるた大会、門松づくり、たこあげ大会等）への参加促進を通じ、交流事業の充実を図る。</u>	【達成状況】 <table><tr><td>保護者の回答</td><td>83.0%</td></tr></table> 前年度と比べ、肯定的回答割合が8ポイント上昇し、数値指標に達した。コロナ禍でも開催可能な方法を模索して、学校園研修会や各種小中一貫事業に取り組んだ。 【次年度の方針】 引き続き、開催方法を工夫して小中連携を図るとともに、活動の趣旨や成果を学校、地域、保護者が共有できるよう、情報発信に努める。	保護者の回答	83.0%
保護者の回答	83.0%			
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 〈地域アンケート80%〉	① <u>地域協議会を活用し、学校・家庭・地域の連携を深め交流の輪を広げるとともに、学習支援ボランティアによる学習支援を積極的に活用し、学校運営の充実を図る。</u> ② 地域探検や体験学習など、街の先生・地域人材や施設・設備等の教育力を生かした体験型学習を充実する。	【達成状況】 <table><tr><td>地域の回答</td><td>100%</td></tr></table> 数値指標を大きく上回り、更に肯定的回答割合が前年度に比べ6.9ポイント上昇した。これまでコロナ禍でできなかった活動も、精選しながら少しずつ再開できるようになってきた。 【次年度の方針】 引き続き工夫して地域の教育力を活用する方法を開発し、特色ある教育活動の展開を図る。	地域の回答	100%
地域の回答	100%			
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① 登下校時の自治会やPTA地区委員会の見守り、「こども110番の家」訪問の実施など地域との連携・協力を推進する。 ② 学校・家庭・地域の連携を行い、<u>学習支援ボランティアによる学習支援を積極的に活用して、児童の学習活動の充実を図る。</u>	【達成状況】 <table><tr><td>児童の回答</td><td>88.1%</td></tr></table> 児童の肯定的回答割合が前年度に比べて1.1ポイント下回ったが、数値指標には達した。コロナ禍でも工夫して学習支援ボランティアを活用し、地域連携に努めた。 【次年度の方針】 引き続き工夫して地域や企業等の教育力を活用する方法を開発し、よりよい児童の育成に取り組む。	児童の回答	88.1%
児童の回答	88.1%			

本校の特色・課題等	A 24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 〈保護者アンケート80%〉	① 常に児童の安全に十分配慮して、校内環境の整備や維持を行う。 ② 毎月の安全点検を的確に行い、児童の安全な生活のために、迅速な補修・修繕を行う。 ③ 登下校時における正門付近の安全を確保するため、立哨指導を行う。	【達成状況】 <table><tr><td>保護者の回答</td><td>96.7%</td></tr></table> ・十分達成できている。校内での意識的・継続的な取り組みにより、児童の姿に成長が見られた。校庭の決まりを随時見直し、安全面に配慮したルール作りをした。安全面において、地域からも100%の肯定的回答があった。健康安全に関して、職員だけでなく、運営委員会の児童が主体となって呼び掛けることで、子どもたちが意識を高め、新しい生活様式を守り安全に過ごしていた。危険箇所や修繕箇所の報告と補修や改善の対応が迅速に行えた。駐車場を区切ったり、正門の前に立ち、車の誘導を行ったりするなど、具体的な取り組みを保護者に示すことができた。 【次年度の方針】 ・職員間での報告・連絡・相談を緻密に行い、統一された指導をしていく。細やかに連絡を取り合い、健康安全面で共通意識をもって取り組んでいく。各種便りや保護者との懇談においても、児童の成長について伝え、家庭との連携を深めていく。	保護者の回答	96.7%					
	保護者の回答	96.7%								
	A 25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① 学校図書館司書業務職員等と連携し、学習に必要な図書を充実させるとともに、ICT機器や備品等を整備し、学校図書館を活用した主体的な学習を効果的に行う。 ② タブレット型PCを始めとするICT機器の効果的活用により、主体的・対話的で深い学びを促進し、児童の情報処理能力の育成を図る。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の回答</td><td>90.1%</td></tr></table> ・十分達成できている。 【次年度の方針】 ・学校図書館司書業務職員と連携し、学習に必要な図書を充実させるとともに、ICT機器や備品等を整備し、児童がより活用しやすい環境を整える。	児童の回答	90.1%					
児童の回答	90.1%									
B 1 児童は地域の様々な行事に積極的に参加している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、池掃除・かると大会・門松教室・風あげ大会など、地域の行事に進んで参加し、地域の人とのつながりを大切にしている」 ⇒全体の肯定的回答 〈80%以上〉	① 地域協議会の行事や地域社会の行事に参加することにより、地域の人と触れ合い、地域の人材を有効的に活用して教育活動の充実に努め、「地域とともにある学校づくり」を目指す。 ② 活動の様子を、校内掲示や学校だより、学校HPなどを活用して情報発信していく。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>84.8%</td><td>地域</td><td>87.5%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>48.1%</td><td>児童</td><td>62.6%</td></tr></table> 教職員と地域住民の肯定的回答割合が数値指標に達し、昨年度比を上回ったが、保護者と児童の肯定的回答割合は数値指標を下回り、昨年度比を下回った。地域協議会による学校への協力事業（落ち葉掃きボランティア活動や学校参観及び給食試食会等）は実施できたが、地域の行事は今年度もほぼ中止となったことを鑑みると本結果は致し方なしと考えられる。 【次年度の方針】 引き続き地域協議会や地域社会の行事参加や学校での地域人材の有効活用を促進し、「地域とともにある学校づくり」を目指す。 校内掲示、学校だより、学校HPを活用して、積極的に活動の様子や子どもの変容などの情報を発信していく。	教職員	84.8%	地域	87.5%	保護者	48.1%	児童	62.6%
教職員	84.8%	地域	87.5%							
保護者	48.1%	児童	62.6%							

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取り組みにかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・コロナ禍3年目という事であったが、今年も昨年との比較で保護者・地域住民の評価項目の多くが肯定的回答の割合が上昇している。特に、A21「学校は『小中一貫・地域学校園』の取り組みを行っている。」の項目で、今年度も学校生活において様々な制約があったにもかかわらず、教職員・保護者・地域住民・児童生徒のすべての項目で向上している。取り組みが認知されてきた結果であろう。また、今年度より地域住民についても、紙ベースではなくネットからのアンケート入力となり、心配していたがスムーズに入力することができた。A10・A25「児童生徒は ICT 機器や図書等を学習に活用している。」の結果からも分かるように、1人1台端末の活用において、教職員の熱心な取り組みにより本校では端末の活用が当たり前のこととなりつつあるように見える。

・学習に関しては、算数科を中心に、今年度も引き続き「主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動の工夫」に取り組んできたことで、学習意欲の向上が見られた。教職員・保護者・地域住民・児童生徒のすべての項目で肯定的回答が9割を超えた。

・毎年、課題に挙げられている「あいさつ」については、昨年度まで低かった保護者と地域住民の肯定的割合が大幅に上昇した。校内では高学年を中心にあいさつや言葉使い等、身に付いてきている。今後も継続して全校体制で取り組み、教職員・保護者が共通の認識に立って指導に当たり、さらに効果を上げていきたい。

・「宇都宮の良さの理解」については、児童の肯定割合が昨年度よりも1.1ポイントの上昇にとどまった。来年度も生活科や社会科、総合的な学習等において、国本地区や宇都宮市のよさについて学習する機会をとらえていく。

○今年度もコロナ禍により地域協議会との連携事業や、地域の様々な行事が中止となったが、今後も無理なくできる事を検討しながら、保護者・地域・学校との連携に取り組んでいく。また、読み聞かせや安全対策・学習支援などへの協力者がさらに増えるよう、継続して働きかけていく。

7 学校関係者評価

・こどもがとても元気なので、見ていて気持ちが良い。

・朝あいさつの声掛けしているが、なかなか（少人数のみ）返答がない。今後も続けて行こうと思う。

・児童は主旨交通規則を守っているが、交通の激しくない裏道などを歩く姿を見ると右側通行というより、塀側通行をしているのをよく見かける。

・コロナの中で大変だと思う。そんな中でも交流をいかに図れるか、共に考えていきたい。

・1年生の「昔のあそび」今年はできてよかった。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取り組みにかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・集計結果によると、昨年度と比較して保護者・地域住民で上昇が見られた項目があったが、教職員・児童では下降した項目もあった。晃宝小学校の教育活動についての学校の取り組みに関する項目については、肯定的回答がおおむね評価指標の8割を超えた。全職員共通理解の校内体制を軸に、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいる成果により、児童が楽しく安心して学校生活を送ることにつながっている。

・コロナ禍において、授業形態や学習内容等の制限により教員の新たな教材研究に費やす時間が増え、さらに GIGA スクール構想による1人1台端末の活用で、児童にとって有効な結果が出ているが、そのための教員の準備に膨大な時間が費やされている。今後もさらに新たな取り組みが生じる事を踏まえ、地域や外部機関等の学校支援の充実を図りながら、教職員個々のタイムマネジメント力を高め、業務効率化を進める。

・いじめへの取り組みに関しては保護者の肯定的回答が8割を超えた。各種たよりや学校ホームページでの紹介等の効果があったと思われる。学校として、いじめ根絶に向け、これまで以上に全職員による協力体制を強化し、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。

○あいさつについては、肯定的回答の割合が指標に達し、校内での指導の成果が上がっており、保護者や地域住民の意識も向上しているの、継続していくとともに、地域学校園等の連携・協力の充実を図り、今後も組織的に取り組んでいく。